

みなさま、たいへん、ご無沙汰しております。

読書普及協会が主催する、全国各地で行なわれているイベントを取材し、紹介させて頂く特派員通信。

各地で魅力的なイベントが数々行なわれていたにも関わらず、取材依頼の手を抜いてしまい、放置状態になっていた事に、深く反省をしている、特派員通信担当の宍戸です。

久しぶりの特派員通信は、滋賀県で開催された『本の力』を、京都の井尻特派員がレポートして下さいます。

## 本の力in滋賀

さる5月10日（日）、滋賀県近江八幡市にて、佐伯英雄理事長のブックトークショー『本の力』が開催されました。

主催されたのは、滋賀支部長で、古本屋『本の森』の店主でもある苗村敏博さん。滋賀支部の拠点でもある、苗村さんのお店『本の森』が、栗東市から近江八幡市へ移転オープンされる記念イベントとして東京から理事長をお招きしての開催でした。

新しいお店は、元、乾物・鮮魚屋兼住居だった大きな古民家。

店の表は、昭和のレコード店やレンタルビデオ店のような懐かしさ漂う店構え。

店の奥は 畳のお座敷、そして、カマドや土間もある歴史由緒を感じさせる造り。

さらに、2階には20畳近いお座敷があり、ここが今回のイベントの会場に。

地元滋賀、そして京都から10名あまりのお客さまをお迎えして、いよいよイベントの開始です。

まずは、ウォーミングアップとして、私、京都支部長の井尻が『ゆる体操』体験レッスン指導。

これから始まる長丁場のために、まず皆さんに、気持ちよく脱力して頂きまして・・・  
(笑)

2番手は、店主である苗村さんから、開業挨拶トーク『やっぱりボクは古本屋』

駅前の商業施設に 高いテナント料を払って頑張っておられた、前の店での10年間。一緒に事業を始めた仲間たちとも別れ。

経営に行き詰まって 精神的にどうしようもなくなって、昨年、「話を聞いてもらおうと」佐伯理事長に会いに、こっそり上京されたエピソード。

丸一日 東京を歩きながら ふたりで語り合っ、「やっぱりボクは古本屋しかないです・・・！」と 心が甦ったお話。

駅前という利便性を捨て、山のふもとに近い古民家での再開というカラーをガラリと

変えての再出発。決意してからの行動は 実に迅速（笑）  
必要な物、情報、協力者が どんどん現れ、スムーズな移転開業にこぎつけられたそ  
うです。

新しい店は『昭和』をテーマに、子供も大人も ふらっと入ってきて仲良くなれる、  
『駄菓子屋系古本屋』として やっていかれると。

キャッチコピーは、  
—— 『ON』と『OFF』の間に もうひとつの【居場所】 ——

そしてかねてから胸の内に温めていたプロジェクトとして  
『ラク活き寺子屋 一学塾』という“私塾”を店内に立ち上げることを発表！

御自身が、かつて、いじめられっ子で、不登校児であり、社会人になってからも、苦  
労なさってきた苗村さんが、古本屋を開業してから、数多くの悩める子と親しくなっ  
て、長年にわたり、相談にのり世話をしてきた事の集大成で、その内容も

- [よろず逃げ込み部屋：どうしようもない時は、まず 逃げろ！]
  - [自然科学が教えてくれる、ラクに生きるヒント] など
- 知識ではない 生きる知恵を [対話形式] で育む 寺子屋のような私塾として、  
大人、子供を問わず、また、個別・集団講義、両方でやって行かれるそうです。

琵琶湖の片隅の 古民家から、新しい時代の 人の繋がり方を発信していく。  
『本の森』さんの今後の展開に 注目したく思いました。

